

第11回 耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

令和3年の耳川流域の概況

令和4年7月25日

## ～令和3年耳川流域の特徴～

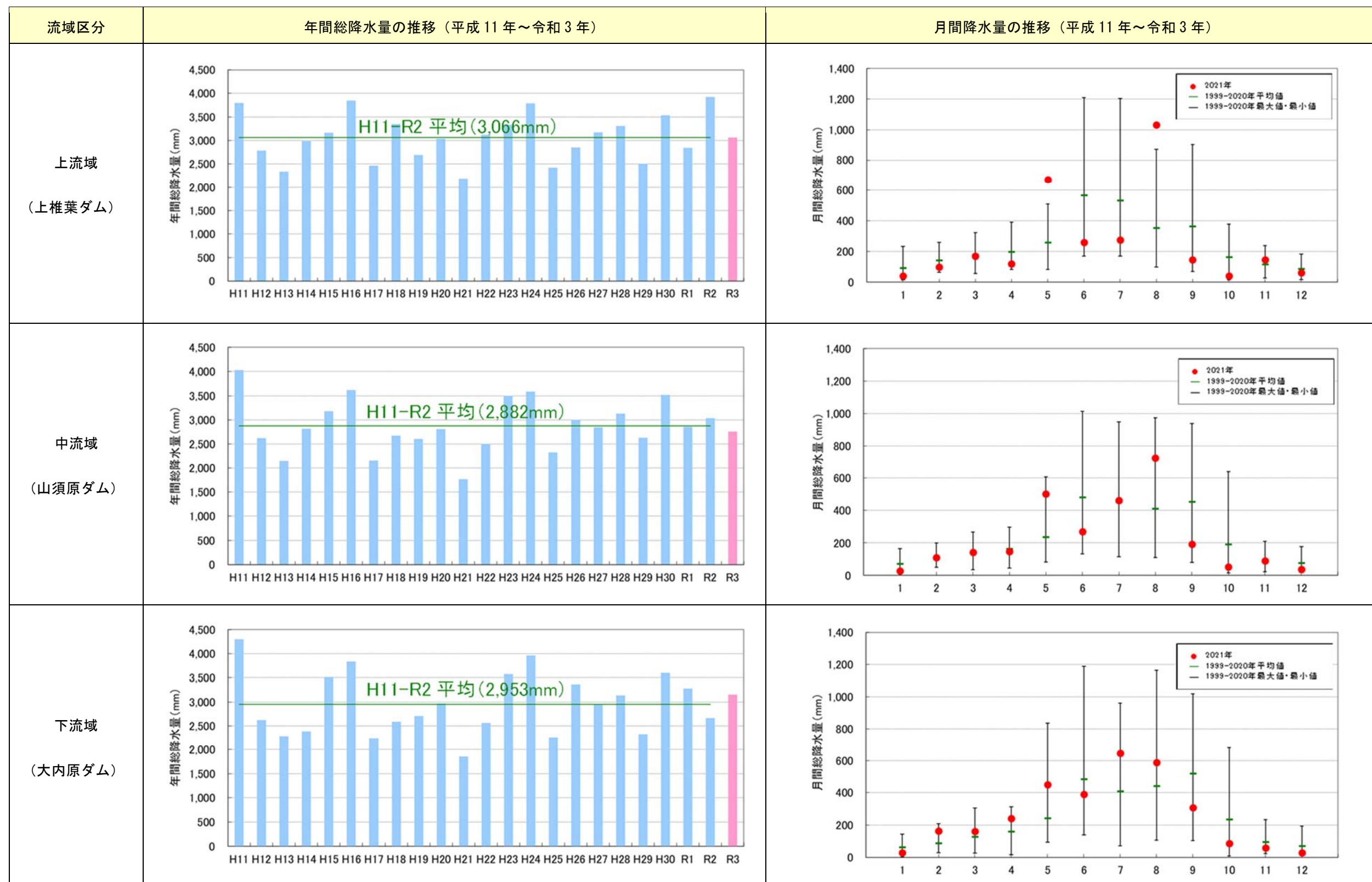
- 令和3年の年間降水量は、上・中流域で平均（平成11年～令和2年）より少なく、下流域で平均（平成11年～令和2年）より多かった。
- 令和3年の主な出水は、前線性出水（7月16日～21日）台風9号（8月9日）と前線性出水（8月12日～20日）であった。
- 令和3年の月間降水量をこれまでと比較すると、上流域の5月及び8月は、平成11年～令和2年の変動幅を超過して大きかった。
- 令和3年で最も大きかった出水は前線性出水（8月12日～20日）であり、山須原ダムでは最大流入量が $903\text{m}^3/\text{s}$ であり、平成11年以降の23年間で8番目に小さい規模、大内原ダムでは最大流入量が $902\text{m}^3/\text{s}$ であり、平成11年以降の23年間で6番目に小さい規模の流入量であった。

## 1. 降水量の概況

各流域（上流域、中流域、下流域）の年間降水量と月間降水量を整理した。

令和3年の年間降水量は、上・中流域で平均（平成11年～令和2年）より少なく、下流域で平均（平成11年～令和2年）より多かった。

令和3年の月間降水量は、中・下流域で平成11～令和2年の変動の範囲内であったが、上流域の5月および8月は変動幅を超過して大きかった。

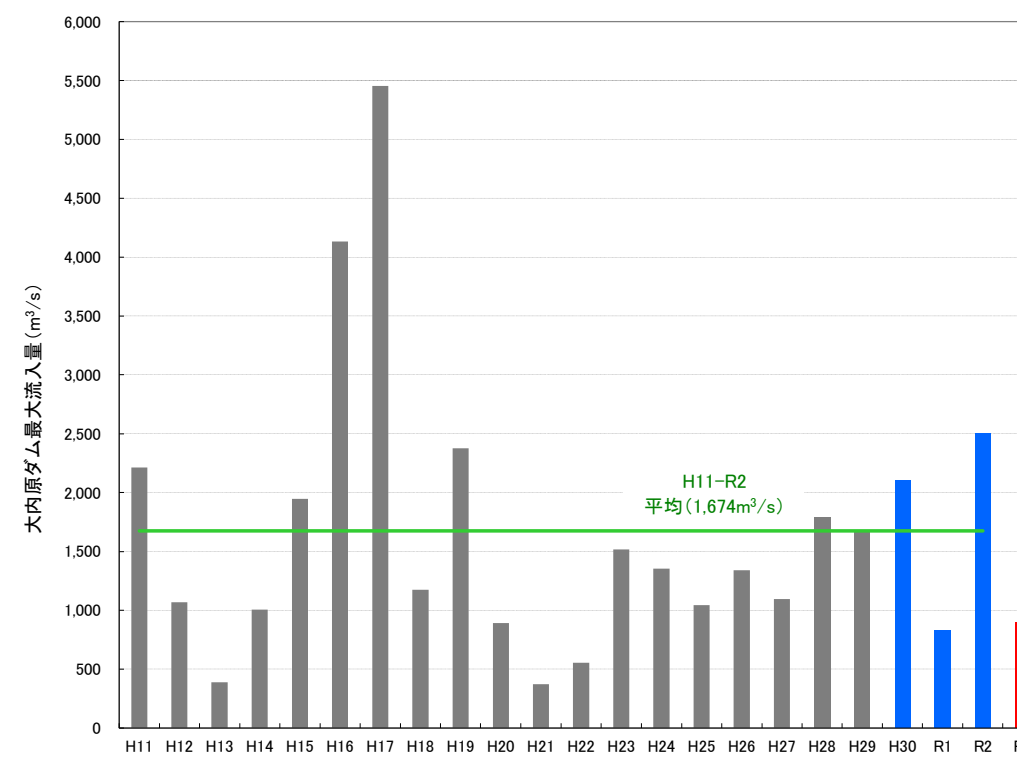
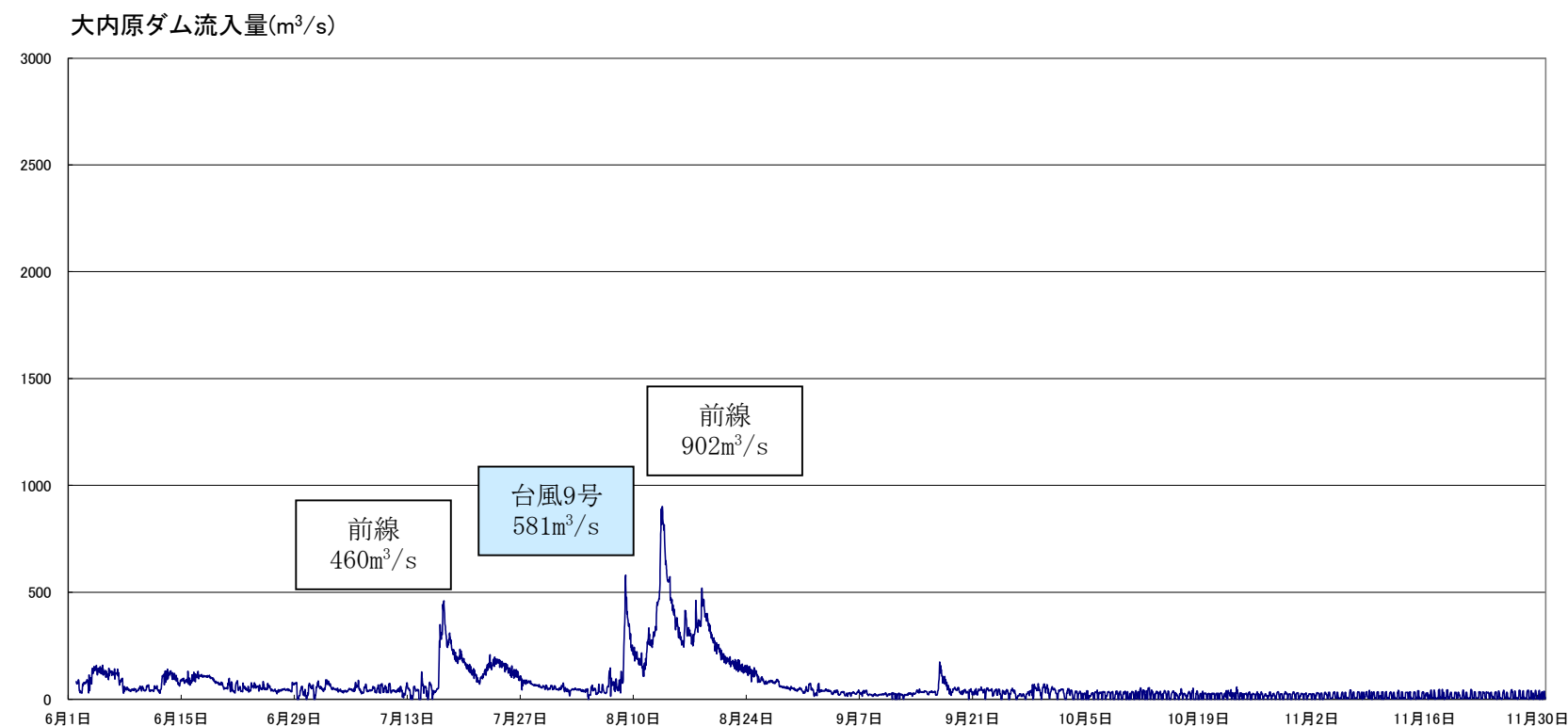
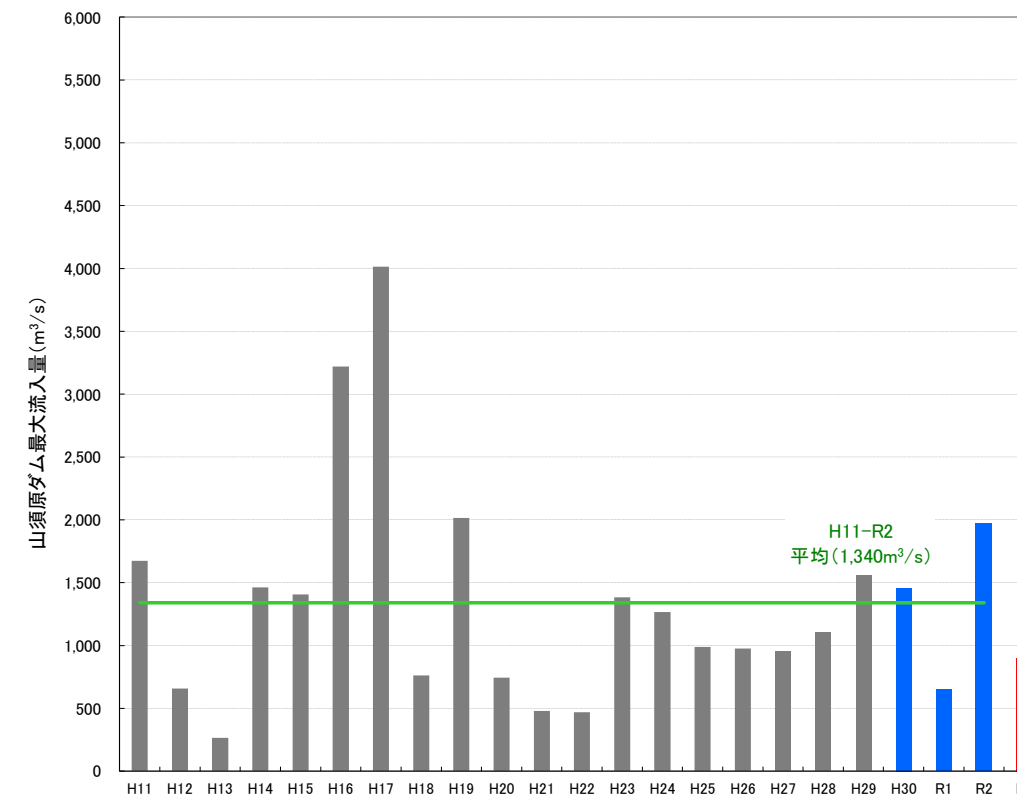
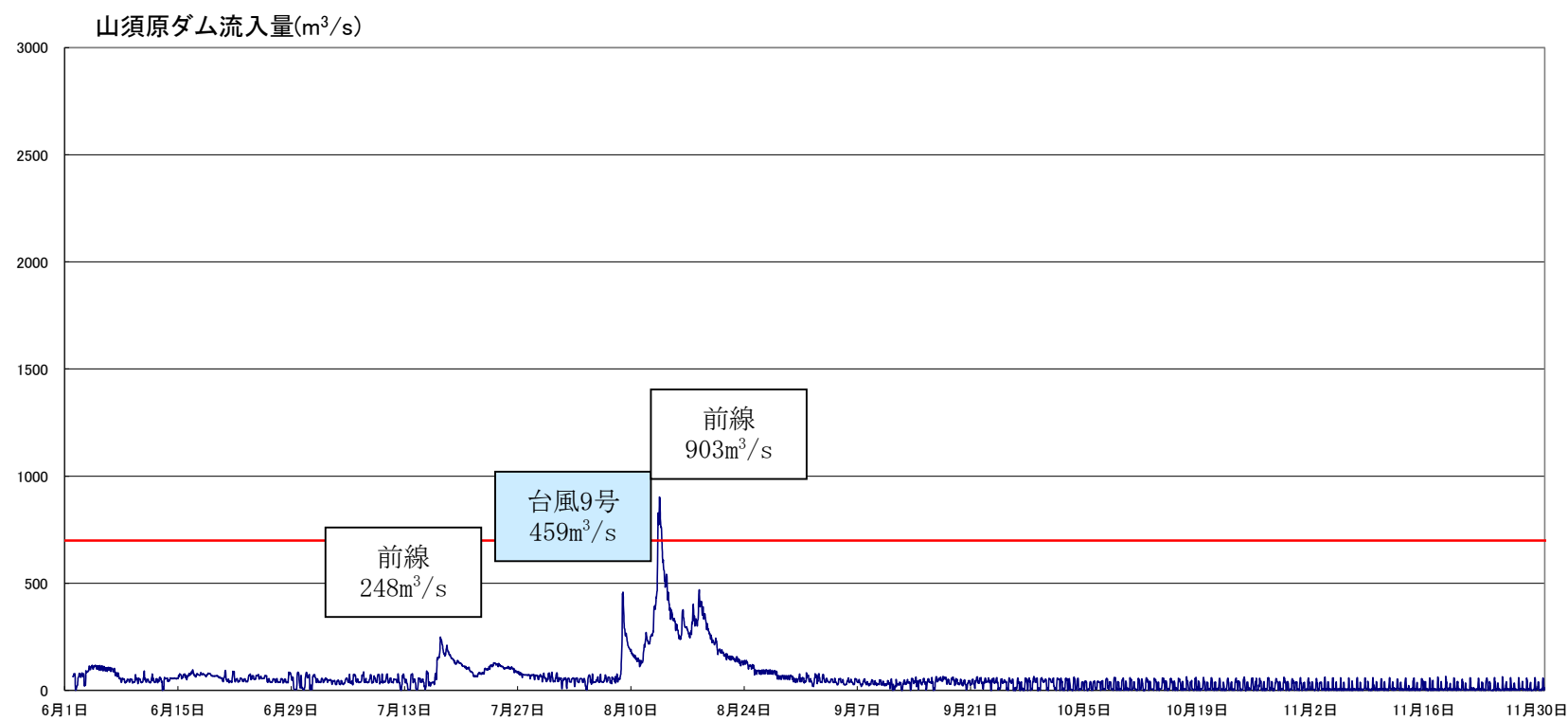


## 2. 出水の概況

令和3年の主な出水は、前線性出水（7月16日～21日）台風9号（8月9日）と前線性出水（8月12日～20日）であった。

令和3年で最も大きかった出水は前線性出水（8月12日～20日）であり、山須原ダムでは、最大流入量が903m<sup>3</sup>/sであり、平成11年以降の23年間で8番目に小さい規模の流入量であった。

また、大内原ダムでは、最大流入量が902m<sup>3</sup>/sであり、平成11年以降の23年間で6番目に小さい規模の流入量であった。



年間最大流入量の経年変化